

一 般 質 問 通 告 書

令和6年5月20日

議 会 議 長 様

議席番号 8 番

議員氏名 上 田 聡

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
1. アグリパークをオーガニック農産物の発信拠点に	<p>福島県二本松市では、「道の駅ふくしま東和」を核として2005年にNPO法人「ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」が立ち上がり、有機農産物の学校給食への提供をはじめとした産直事業や特産品の販売に加え、農業体験や都市との交流、市と共同での新規就農者の支援等に取り組んでいる。</p> <p>千葉県いすみ市では、環境と経済の両立を目指し、2012年に「自然と共生する里づくり協議会」が設立され、わずか4年で学校給食での全量有機米使用を達成した。さらにこれがきっかけで、2023年時点で有機稲作の会員数は28軒、作付面積は38ha、生産量は約120tとなり、販路が県外に広がるまで有機米栽培は成長した。2016年からは、有機米づくりの体験を中心に、農業と環境、地域との関りを学ぶ教育プログラム「いすみ教育ファーム」がスタートした。</p> <p>以上2つの事例に見られる共通成果は、地元農産物の学校給食等への公共調達の拡大により農業所得が向上・安定し、新規就農希望者が増加したこと、生産者と消費者の顔の見えるつながりが様々な体験や交流を通じて築かれ、地産地消や環境教育・職能教育・食育の推進につながったこと等である。</p> <p>そこで以下町の見解を伺う。</p>	町長 副町長 教育長 教育総務課長 学校教育課長 産業振興課長 環境課長 担当課長

5月20日 午前・午後 4時45分 受理

質問事項	質問要旨	指定答弁者
<p>2. アグリパークをソーラーシェアリングの発信拠点に</p>	<p>(1) 学校給食への全量有機米使用を目指す取組を始め、これをテコに町の農業振興と食育の推進を一体で図るべきと考えるが町の見解は。</p> <p>(2) 有機米等を普及するにあたっては、いすみ市では「抑草」と呼ぶところの除草技術や有機堆肥づくり等の有機稲作技術の指導と実践が欠かせないが、アグリパークをその拠点にしてはどうか。同時に、新規就農希望者を想定し、アグリパークを新規就農支援の拠点としてはどうか。有機稲作の技術指導はもちろん、新規就農者と地元農家をつないだり、住まいの紹介をしたり、経営が安定・発展するまでワンストップでサポートする窓口だが、いかがか。</p> <p>(3) 有機農産物の学校給食への公共調達拡充や農業体験等を通じて、アグリパークを「生産者と消費者とをつなぐ拠点」として、「農業—食料—健康—教育を結ぶハブ」としてあらためて位置付け、機能を強化してはどうか。</p> <p>(4) 「オーガニックビレッジ宣言」をすると、国の「みどりの食料システム戦略推進総合対策」として、有機農業への転換推進に対して10a以内当たり2万円が交付されるなど様々な国費支援がある。杉戸町もオーガニックビレッジの宣言を検討してみてもどうか。</p> <p>千葉県匝瑳市には「匝瑳おひさま畑」があり、ソーラーシェアリングによる有機大豆・有機麦の生産とこれらを利用した6次産業や発電事業が成功事例として全国に知られている。ソーラーシェアリングの導入費用は約3億円だが、年間の売電収入は4700万円に上り、その内の200万円は地域の協議会に環境保全基金として拠出されている。</p> <p>また、先に紹介した福島県二本松市でもソーラーシェアリングで618世帯相当分(二本松市全世帯の3%)の電力を生産し、太陽光パネルの下ではシャインマスカット等の生産を行っている。</p> <p>そこで以下伺う。</p>	<p>町長 副町長 産業振興課長 環境課長 担当課長</p>

質問事項	質問要旨	指定答弁者
<p>3. アグリパークや病院、公共施設へのアクセスをもっと便利に</p>	<p>(1) アグリパークのカントリー農園やふれあい農園、体験水田等に営農型太陽光発電設備を、また駐車場の一部にソーラーカーポートを設置して、アグリパークを町のソーラーシェアリングの一大発信拠点にしてはどうか。有機農業の推進と一体でSDGsの推進に貢献できる取組となると思うが町の見解を伺う。</p> <p>(2) アグリパークで生産した100%自然由来の有機農産物とその加工品は目玉商品となり、集客にも一役買うと思うが、町の見解は。</p> <p>5月18日に開かれた議会懇談会では、総務建設グループの第1部「アグリパークゆめすぎとをさらに魅力アップするには」をテーマにした懇談の中で、発言者10名中2名から、交通の便が悪くて行くのが億劫といった趣旨の発言があった。そこで町長に伺う。</p> <p>(1) 農業祭や軽自動車展示会、オール・ドギーズ・フェスタ、キッチンカーフェスタ、木の実工作教室などアグリパークでのイベントや行事はおしなべて土日開催である。しかしながら巡回バスは土日に運行をしていないため、交通手段は自家用車やタクシー、自転車等に限られてしまう。アグリパークの賑わい創出のためにも、免許を自主返納した高齢者のささやかなお楽しみのためにも巡回バスは土日も運行すべきではないか。</p> <p>(2) 病院は土曜日も診療している。公民館も新しくできたコミュニティセンターも土日に開館し、そこではサークル活動や学習会、講演会などが行われている。土日こそ巡回バスの出番ではないか。</p> <p>(3) 町は土日運行をしない理由を、数年前までは「費用対効果」としていたが、昨今では法改正を受けた「運転手不足」としている。では、土日便については、町が土日手当等の人件費の追加負担をしてでも運行してはどうか。</p>	<p>町長 副町長 住民協働課長 総合政策課長 産業振興課長 担当課長</p>